

私からはじめるまち育て

レポート
vol. 2



外部講師

NPO法人 あいちがすがいっこ
松元 永己氏



私からはじめる 子育てと安心安全

話題提供

知立駅周辺エリアは大規模なインフラ整備により、まちが大きく生まれ変わりつつあります。新しい知立駅とその周辺地区をどんなまちにしていきたいか、まちのあり方を考え、アクションにつなげるための議論を昨年度から進めています。今年はより議論を掘り下げるため、主要なテーマにまつわる話題提供とディスカッションを通じて、未来の駅周辺を想像し、いまの私たちにできることを考えていきます。

第2回は令和5年9月29日(金)に「子育てと安心安全」をテーマに計23名で議論を行いました。会場のテラコヤサUNK(運営:株式会社TC3)の温かな雰囲気の中、親子連れからシニアまで幅広い世代が集まり、互いの思いや意見を共有しました。

子育てと安心安全

誰もが安心して暮らすための環境づくり

今回のワークショップの外部講師の話題提供は、春日井市を拠点に、子育て世代を様々な角度から支援しているNPO法人あいちがすがいっこの松元さんからお話しいただきました。

NPO法人あいちがすがいっこは「助け合う」「支え合う」「認め合う」「見守る」「地域づくりをしよう」という思いで設立されました。「まちづくりを点で見るのではなく、多様な人々が抱える暮らしの不安や悩みを地域全体で考えることが重要」という言葉が印象的でした。

実際に松元さんのもとに相談に来るママの中には、春日井市外から引越してきた、不安や孤独を感じて人も多いいいます。ママの様々な悩みに寄り添えるよう、多様な背景を持ったメンバーが在籍し、支援を行っています。多様な視点や連携を大事にするNPO法人あいちがすがいっこのメンバーはママだけではなく男性を含めた様々なメンバーで構成されているのも印象的でした。

また具体的な活動内容として、①子育て情報の循環整理(春日井市の情報発信サイト「Happy Mami's」の運営等)、②次世代育成、③地域交流・活性化、④子育て世代の交流・居場所づくり、⑤母親の社会復帰支援、⑥ライフスタイル、⑦有料職業紹介事業など、主要事業の7つをご紹介いただきました。

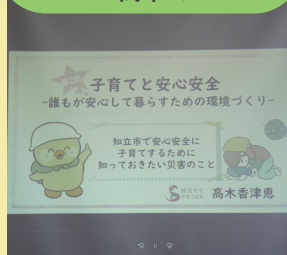
包括的な中間支援者としての多岐にわたる活動は、まさに地域の子育てインフラを形成している様子がうかがえました。

中でも今年で第11回を迎える「ママの文化祭」は春日井市の子育て世代に向けて、子育てや暮らしがもっと楽しくなるような地域密着の大人気イベントとなっています。ステージパフォーマンスやハンドメイド作品の展示販売、子育て世代が交流できる集いの広場など、魅力的な企画はもちろんのこと、地元企業や地域のシニア世代など子育て世代に留まらない関係者がイベントの開催を支えており、まちづくりを点で見ず、地域全体で取り組んでいくことを体現されていると感じました。

これらの多様な活動の根底には「それぞれの家族のサイズで、それぞれの幸せのカタチがある」という松元さんの思いがありました。子育て世代が抱える不安や悩み、またその向き合い方も様々であることから、それぞれの思いを尊重しながら、これまで様々な支援を続けられています。

「子育て支援とは、人材育成でありまちづくりであり、自分発見である」この松元さんの力強い言葉は、子育て経験の有無に関わらず、共感できる部分が多くありました。子どもたちは地域の未来であり、自分もその地域づくりの当事者であることを再認識する心強いエールとなりました。

地域講師
防災ママかきつばた
高木氏



2人目の登壇者は、防災ママかきつばたの高木さん。ご都合により動画での出演でしたが「災害をイメージして安心に暮らせる知立」というテーマでお話いただきました。

火災、水害、ライフラインのストップなど、普段はなかなか意識することが少ない災害の脅威と、その備えの重要性について気づかされる内容でした。特に家族の特性を踏まえた上で備蓄品を用意したり、ハザードマップを確認することから、子どもを含めた家族全体での防災意識の大切さを痛感しました。

地域講師
一般社団法人 cottonari
佐藤氏・本田氏



地域講師の1人目の登壇者は、福祉と子育ての両面から事業を展開している（社）cottonariの佐藤さんと本田さん。多様な人々が隣り合って暮らしていけるまちを目指し、親も子ども健康やかに成長する機会を提供する活動を行っています。

すべての子どもが豊かに育ち、親が安心できる環境づくり

科学を英語で学ぶ教育環境

地域講師
株式会社 FUJI
細井氏



3人目の登壇者は、今回のワークショップ会場「テラコヤサンク」の運営事業者でもある（株）FCIの細井さん。電子部品実装ロボットや工作機械の製造販売を手がける（株）FCIが、なぜ地域児童向けのイングリッシュアフタースクール（テラコヤサンク）を作ったのか。

そこには「グローバル×ものづくり」の現場で培われた人材育成と地域貢献への思いがありました。また、テラコヤサンクは西町児童遊園に隣接していることから、連想的に設計された空間がのびのびと開放的な景観を作り出しています。こだわりの建築デザインは公園側から見ても庄巻の作りになっています。ぜひ皆さんもご覧になってみて下さい。

（社）cottonariが行っている児童発達支援、放課後デイサービスなど支援の必要な子どもたちのためのサービスや、子育てママの応援拠点として「ママ支援cottonari」託児adncoo」など多岐にわたる活動を紹介いただきました。その原点は孤独や不安の中で子育てをしたご自身の経験というお話をうかがい、より良い子育て環境改善への思いが、現在の包括的な取り組みに結びついていると感じました。

話し合いの
成果

参加者は班ごとに分かれ、知立駅周辺の「子育てと安心安全〇〇カ条」を話し合い、まとめた意見を発表しました。

A班 ①多世代が交流できる場作り

- ②働きながら子育てしやすい（手ぶら保育、地域講師による習い事）
- ③産後の孤独を解消（気軽に大人と話せる機会をつくる！ノックノックホームサポート）
- ④多様性を尊重し、みんなを巻き込む→情報発信、様々な意見を抽出する仕組み

B班 ①人：ふれあい、思いやり ②発想の転換、考え方、既成概念を変えよう！

- ③場所：みんなで見守るコミュニティスペース（年代問わず）

C班 ①みんなで支援 ②外に出る目的

- D班 ①パパも一緒に子育てしやすいまち ②駅前でホッとくつろげる居場所
- ③ぐるっと観光しながら歴史を知るまち歩き ④防災をカスタマイズできるカフェ

E班 ①子どもの食事に気を使ったカフェ ②子連れで気軽に行ける施設

- ③知立を引っ張っていく人材育成 ④子どもへの教育
- ⑤新しい人と地元の人の交流の場 ⑥困っていると言える場

Pick up!
みんなの
共通意見

発想の転換
多様性の尊重

家族、ママ、パパで子育て

産後の孤独、ママの「働く」をサポート
パパの活躍しやすい環境

松元先生より

企業+子育て支援

他所の企業まかせにせず
地元でできる！

防災を身近に！
訓練をもっと楽しく

居場所づくり
子連れで気軽に！

つながりの中での子育て
地域で、多世代で
外に出る、まちに出る
目的づくりサポート

質の良い教育
↓
知立をひっぱる人
を育成

終了後のアンケート紹介

- ・子育てや防災の視点がいかにもまちづくりに関わっているかを学ぶことができました。
- ・地域で活動する団体の皆様の力強さを感じました。
- ・以前から気になっていた団体の方々のお話が伺えて嬉しかったです。

発行日：2023年10月24日

発行：知立市民部 経済課 商工観光係

TEL) 0566-95-0125（直通）

Mail) keizai@city.chiryu.lg.jp

協力：大日本ダイヤコンサルタント株式会社、NPO 法人まちの縁側育くみ隊